

## **御霊に満たされなさい**

エペソ人への手紙 5章 18-21 節

### **はじめに**

今日は、「ペンテコステ」です。ペンテコステとは、「五十番目」という意味で、イエス様の復活を記念するイースターから「五十日目」にあたります。クリスマス、イースター、ペンテコステは、キリスト教の三大祝祭日となっています。

なぜイースターから五十日目にお祝いするのでしょうか？それは、この日に聖霊がこの地上に遣わされたからです。私たちが信じる唯一の神は、三位一体の神です。神様はただおひとりですが、父なる神とイエス様と聖霊という三つの人格を持っているのです。父なる神も神であり、イエス様も神であり、聖霊も神である、しかし神が三人いるのではなく、ただおひとりであるというのが、私たちが信じている三位一体の神です。

2,000年前に、イエス様がこの地上に遣わされたのを祝うのがクリスマスです。イエス様は十字架に架かり復活した後、天に昇られました。今、イエス様は父なる神様と共に天におられます。

天におられる父なる神様とイエス様は、イエス様が天に昇られた後、聖霊をこの地上に遣わされました。そのことを祝うのがペンテコステです。今、この地上で私たちと共にいて、私たちに罪を示し、信仰を与え、慰め、励まし、導き、私たちが少しずつイエス様の似姿へと変えてくださるのは、聖霊なる神様です。イエス様が再びこの地上に来られる世の終わりの時まで、私たちは聖霊に導かれて、聖霊と共に歩むのです。

しかし聖霊は、目に見えない方ですので、私たちと共におられると言っても、なかなか実感が湧きません。ですから私たちはすぐに、聖霊が私たちと共におられることを忘れてしまいます。そして、聖霊に信頼するよりも、他のものに信頼してしまいます。目に見えるものに信頼し、それらに助けを求め、慰めと励ましと導きを得ようとしています。

### **1. 酒に酔ってはいけません**

今日の聖書箇所では、私たちが聖霊ではなく、他のものに信頼してしまうその代表として、お酒（アルコール）が挙げられています。

クリスチャンは比較的あまりお酒を飲みません。特に私たち日本長老教会を含む日本の福音派と呼ばれる教会のクリスチャンは、比較的酒を飲まない傾向にあります。

しかし決して、お酒そのものが悪い物なのではありません。パウロは、「**食物は、信仰があり、真理を知っている人が感謝して受けるようにと、神が造られた物です。神が造られた物はみな良**

**い物で、感謝して受ける時、捨てるべき物は何一つありません」( I テモテ 4:3-4)**と語っています。お酒も、神様に感謝して飲む時、それは良い物です。イエス様も、水をぶどう酒に変える奇蹟を行なって、結婚式の集まった人たちにお酒を振る舞われました(ヨハネ 2:1-11)。イエス様がもし、お酒自体を悪い物だと考えていたら、このような奇蹟は行わなかったでしょう。パウロも、テモテに対して、病気のために少量のぶどう酒を飲むように勧めています( I テモテ 5:23)。

ですから、お酒自体が悪いわけではありません。適度に、神様に感謝して飲むことは、決して悪いことではありません。しかし、お酒は飲み方を間違えると、私たちの人生を滅茶苦茶にする危険性があります。聖書もそのことを警告しています。特に執事や年をとった婦人に対して、大酒を飲むことを禁じています( I テモテ 3:8、テトス 2:3)。お酒は、適度に神様に感謝して飲む分には良い物ですが、限度を超えて飲む時、私たちの人生を狂わせることとなります。

パウロは今日の聖書箇所で、「**酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです**」と語っています。ここでパウロが禁じているのは、「お酒に酔うこと」です。ここでの「酔う」という言葉は、「浸す」という意味があります。ですからパウロが禁じているのは、適度にお酒を飲むことではなく、大量にお酒を飲み、酔っ払い、自分をコントロールできなくなり、お酒に支配されるような状態です。

なぜお酒に酔ってはいけないのでしょうか。それは、「放蕩があるから」です。ここでの「放蕩」という言葉は、イエス様のたとえ話に出てきた「放蕩息子」の「放蕩」です。

パウロが「お酒に酔うこと」を禁じているのは、「放蕩息子」のようになるからです。放蕩息子は、お父さんからもらった財産を湯水のように使い果たしてしまいました。特に彼は遊女におぼれてその財産を使い果たしてしまっただけです。放蕩息子は、性的な不品行にのめり込み、財産を浪費しました。彼は、自制する力、正しい判断力を失い、自分をコントロールできなくなっていたのです。その結果、彼は何もかも失い、死ぬ一歩手前まで行ったのです。

お酒も一歩間違えると、私たちから何もかも奪い取っていきます。お酒は、私たちのあらゆる感覚を麻痺させます。私たちの自制する力、理解する力、判断する力、恐れを感じる感覚を麻痺させます。その結果、お金を浪費させたり、性的な不品行の罪を犯させたり、人とのあらゆるトラブルを起こさせます。そして最悪の場合、私たちの人生を一瞬して狂わせま

す。お酒は、私たちの感覚や力を麻痺させ、一時的に私たちを楽しくさせ、私たちの恐れを感じる感覚を取り除きます。それゆえ、多くの人がお酒を飲むことで人間関係を築き、本音を語り合おうとします。またお酒を飲むことで、心の虚しさ、寂しさ、怒りを紛らわそうとします。多くの人がお酒の力を借りて、自分自身を何とか保ち、人との人間関係を築こうとします。

## **2. 御霊に満たされなさい**

しかしパウロは、今日の聖書箇所で、「お酒に満たされてはいけない。むしろ御霊に満たされなさい」と言うのです。お酒はあらゆる危険性を伴うけれども、御霊はそうではない。御霊は私たちの感覚や力を麻痺させるのではなく、私たちを内側から変え、私たちに力を与えてくれます。イエス様も、「**聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます**」と言われました。お酒は私たちの力を麻痺させますが、聖霊は私たちに力を与える方です。そして「**愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制**」の実を、私たちの内に結ばせるのです（ガラテヤ5：22-23）。

パウロは、お酒と御霊を対比させています。それはある意味で、お酒に酔っている姿と御霊に満たされる姿が似ているからです。

イエス様の弟子たちに聖霊が降ったペンテコステの日に、弟子たちは聖霊に満たされて、他国の言葉で神様の大きな御業について話し出しました。しかし、それを見た人々は、弟子たちはお酒に酔っているのだと思ったのです。

お酒に酔っている姿と御霊に満たされる姿は、ある意味では似ています。しかし、その結果はまるで違うのです。お酒に酔った結果は放蕩が待っているけれども、御霊に満たされた結果は、「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」の実が待っているのです。

## **3. 御霊に満たされるには？**

私たちは、お酒の助けを借りて生きるのではなく、聖霊の助けによって生きなければなりません。皆さんの中には、お酒の助けを借りて生きている人は、あまり多くないかもしれません。しかし、聖霊の助けによって生きているでしょうか？聖霊に満たされて生きているでしょうか？

お酒の助けを借りなくても、自分の力で生きているという人もいますかもしれません。お酒の力も借りず、聖霊の力も借りず、ただ自分の力だけでという人もいますかもしれません。私たちは、お酒に酔わなければそれでよいではありません。私たちクリスチャンの内には、聖霊が住んでくださっているのです。その聖霊を無視して生きるのではなく、聖霊に助けられ、聖霊に導かれ、聖霊に満たされて生きなければなりません。

聖霊は、私たちに罪を示し、信仰を与え、慰め、励まし、導き、私たちを少しずつイエス様の似姿へと変え、私たちの内に人格的な豊かな実を結んでくださる方です。私たちの内において、私たちを地上の生涯の終わりまで導いてくださる方です。

では、私たちはどうしたら聖霊に満たされて生きることができるようでしょうか？

第一に、聖霊が私たちの内におられることを、いつも覚えることです。イエス様は聖霊についてこう言われました。「**その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちに**

らです」(ヨハネ 14:17)。聖霊は、イエス様を信じる私たちすべてのクリスチャンのうちに確かにおられます。パウロは「**聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません**」(1コリント 12:3)と言いました。もし私たちがイエス様を信じているなら、私たちが意識しているしていないに関わらず、確かに私たちの内に聖霊が住んでくださっているのです。

第二に、聖霊を悲しませない(エペソ 4:30)ことです。聖霊は、単なる力ではなく、人格を持った神様です。ですから、私たちが罪を犯し、罪を悔い改めず、罪の中に留まり続ける時、私たちの内で聖霊は悲しまれます。私たちが罪の中に留まり続ける時、聖霊に満たされて生きることができなくなります。

第三に、聖書をよく読むことです。この地上での聖霊の大きな働きは、神の言葉である聖書を書かれたことです。ペテロは、「**聖書の預言は、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです**」(IIペテロ 1:21)と言っています。聖霊は、人を用いて神の言葉である聖書を私たちに残し、その聖書の言葉を用いて、私たちに罪を示し、信仰を与え、慰め、励まし、私たちをイエス様の似姿へと変え、私たちの内に人格的な実を結び、私たちに導かれます。聖霊は、ご自身が書かれた神の言葉である聖書を通して、私たちに導かれるのです。

第四に、私たちの内に働く、聖霊の働きをよく意識することです。パウロは、「**神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです**」(ピリピ 2:13)と言いました。聖霊は、私たちのうちに働いて、私たちに神様の御心を行なわせてくださいます。私たちは、私たちの内に働く聖霊の働きに敏感になる必要があります。

## **おわりに**

イエス様は、「**わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません**」(ヨハネ 14:18)と言われました。私たちは、自分の力や努力でクリスチャンとして生きることが求められているではありません。ましてお酒に頼って生きることが求められているでもありません。

私たちの人生を助け、導いてくれるのは、父なる神様とイエス様が私たちのもとに遣わしてくださった聖霊です。聖霊は今も確かに、私たちの内におられます。その方を無視して、自分や他のものに頼って生きるのは、もったいないことです。

私たちは一人ではありません。聖霊が私たちの内に共におられるのです。その方は、神様であり、人格を持った方です。その方に頼り、導かれ、満たされて歩んでいきましょう。